

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 5 月 18 日 (2006.5.18)

【公開番号】特開 2004-156020 (P2004-156020A)

【公開日】平成 16 年 6 月 3 日 (2004.6.3)

【年通号数】公開・登録公報 2004-021

【出願番号】特願 2003-278705 (P2003-278705)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 23/00

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 24 日 (2006.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 成分 + (B) 成分 + (C) 成分 = 1 0 0 重量部であるとき、(A) 官能基を有する熱可塑性重合体 0 . 1 重量部以上 2 0 重量部以下、(B) 末端に該官能基と反応する成分を有する高分子鎖を含む結晶性樹脂 1 重量部以上 5 0 重量部以下、および (C) オレフィン系樹脂 3 0 重量部以上 9 8 . 9 重量部以下、の 3 成分よりなり、
(B) 成分が連続相であり、連続相の平均厚みが 2 0 0 0 n m 以下であることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 2】

(A) 成分 + (B) 成分 + (C) 成分 = 1 0 0 重量部であるとき、(A) 官能基を有する熱可塑性重合体 0 . 1 重量部以上 8 重量部以下、(B) 末端に該官能基と反応する成分を有する高分子鎖を含む結晶性樹脂 6 重量部以上 4 0 重量部以下、および (C) オレフィン系樹脂 5 2 重量部以上 9 3 . 9 重量部以下であることを特徴とする請求項 1 に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 3】

(B) 成分が厚みが 1 0 0 0 n m 以下である連続相部分が 4 0 % 以上であり、厚みが 1 0 0 0 n m 以下である連続相部分の平均厚みが 6 0 0 n m 以下である連続相であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 4】

(B) 成分が厚みが 1 0 0 0 n m 以下である連続相部分が 6 0 % 以上であり、厚みが 1 0 0 0 n m 以下である連続相部分の平均厚みが 6 0 0 n m 以下である連続相であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 5】

(B) 成分が厚みが 3 0 0 n m 以下である連続相部分が 3 0 % 以上であることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の熱可塑性樹脂組成物からなることを特徴とする成形体。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の熱可塑性樹脂組成物からなることを特徴とするインフレーションフィルム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明者等は、上記の目的を達成すべく鋭意検討を進めた結果、驚くべきことにある特定のモルフォロジーを熱可塑性樹脂組成物及びその成形体に持たせることに成功し、実現不可能であった、耐熱性、ガスバリア性、水蒸気バリア性に優れる熱可塑性樹脂組成物及びその成形体を完成した。

すなわち本発明は、(A)成分 + (B)成分 + (C)成分 = 100重量部であるとき、
(A)官能基を有する熱可塑性重合体（以下、(A)成分ということがある。）0.1重量部以上20重量部以下、

(B)末端に該官能基と反応する成分を有する高分子鎖を含む結晶性樹脂（以下、(B)成分ということがある。）1重量部以上50重量部以下、および、

(C)オレフィン系樹脂（以下、(C)成分ということがある。）30重量部以上98.9重量部以下、

の3成分よりなり、

(B)成分が連続相であり、連続相の平均厚みが2000nm以下であることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物及びその成形体である。